

<全体分析>

試験時間

80分

解答形式

すべてマーク式。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

英文の総語数は1,754で2024年度の1,962からやや減少。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・語彙力に関する問題、会話の空所補充問題、インタビュー形式の問題、読解総合問題などがバランスよく出題される。
- ・設問の指示や選択肢はすべて英語である。
- ・2024年度には大問I [B]で設問毎に選択肢が与えられる形式の空所補充形式の語彙問題が復活しており（前回は1987年度の5肢選択10問）、2025年度も同一形式で出題されている。
- ・2020年度に復活したインタビュー形式の問題は6年連続して出題されている。（1999年度、2004年度、2006～2011年度、2014年度にも出題されてきた）。
- ・2024年度に大問V(46)―(49)で出題された「与えられた発言をしそうな本文の登場人物を答える問題」は2025年度は出題されていない。
- ・2024年度に姿を消した大問Vの語句整序問題とタイトル選択問題が復活している。
- ・ここ数年、大問Iでは単語に関する問題がさまざまな形で出題されてきたが、2025年度はまた新たな形での出題である。

その他トピックス

- ・かつては頻出だった文法・語法の正誤判定の問題は6年連続して出題がない。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	その他	語彙に関する問題	[A] 途中部分を抜いて示された5つの単語があり、抜けた箇所に補うと各組のすべてで単語として成立する文字列を選ぶ問題。 [B] 空所補充形式の語彙問題。(6)の level with A「Aに率直に言う」は受験生にはなじみが薄い表現。	標準
II	読解総合	「ある手品師の話」 (319 words)	本文中の下線を引かれた語の定義として適切なものを選ぶ問題。定義は英語で書かれている。下線部の語は難しいものが多いので、単に語彙力だけでなく、文脈から判断して正解を求める読解力が必要。本文中の働きから下線部の語の品詞を判断し、それに合わせて選択肢を絞り込む。確定しにくいところは後回しにするのがよい。	標準
III	その他	会話文 「紹介により初めて会う大学生の会話」	[A]・[B]ともに空所補充。 会話表現に関する知識を問う問題。下線部と空所が混ざって出題されているので、どの選択肢群から選ぶのか混乱しないように注意が必要。	やや易
IV	その他	「フェミニストの哲学者へのインタビュー」(721 words)	インタビュアーの言葉とそれに続く哲学者の適切な返答を組み合わせる問題。 インタビュアーの前後の発言や選択肢の中に含まれている代名詞等に注目して考えると正解がわかる問題が多い。	標準
V	読解総合	「政治権力者とインフルエンサー」 (714 words)	内容一致、空所補充、語句整序、タイトル選択 (44)・(45)の語句整序は、与えられた10語を並べ替えて英文中の空所を補い文を完成させ、その2番目と6番目を答える問題。文脈と前後の構造を考えて解くことになるが正解が見つけにくい。a force to contend with for the most experienced of (political influencers)とすれば、a force with which the most experienced of political influencers should contend とほぼ同じ意味になる。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

- ・例年、語彙力を問う問題が多く出題されるので、単語・熟語の確実な知識の習得が欠かせない。
- ・読解総合問題では、難度の高い英文が出題されることもあるので、少し難しめの英文もとりにいれながら読解力を高めておくとよいだろう。その際、パラグラフごとに内容を把握することを心がけよう。